

第2学年 道徳科 学習指導案

日時 令和6年11月1日(金) 第5校時
 学園生 2年あおぞら(情緒) 5名
 指導者 橋岡珠恵

1 単元名 「せかいのくにの人たちと」 (内容項目C一(16) 国際理解、国際親善)

2 単元の目標

他国の人々に親しみをもち、自分達と異なる文化のよさに気づいて積極的に関わっていこうとする心情を育てる。(道徳的心情)

3 大空学園の研究にかかわって

【仮説1】自国の文化と他国の文化を比較することによって、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりできるだろう。

日本発祥の食べ物と外国から伝わってきた食べ物の種類を比較することで、日本食(和食)にはどのような献立があるのか、理解を深めさせたい。また、外国から伝わってきた食べ物が自分達が口にしている食事の中に数多くあることに気づくことで、他国の文化について興味と親しみをもつきっかけとしたい。

【仮説2】「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるだろう。

本時の後半に、国や地域によって食事のマナーが異なることについて知る活動を取り入れた。食事の種類を見つめる活動からその食事を食べる人に目を向けさせることで、自分達と異なる文化を大切にして生活する人が多く存在することを意識するとともに、本時の目標にせまる終末段階の「自分達と違う文化をもつ人達と仲良くするために、何が必要か」を考えさせる有効な手立てだと考える。

4 本時の目標

他国の人々に親しみをもち、自分達と異なる文化のよさに気づいて積極的に関わっていこうとする心情を育てる。(道徳的心情)

5 本時の展開

学習活動	□評価 ◆留意点	指導・支援	●国際理解の視点
1. 絵本「あさごはんで世界いっしゅう」の一部を読む。	◆一部を抜粋して、読み聞かせをする。 ◆大きな世界地図を掲示し、登場した食事の写真を地図上に貼る。	・姿勢を保持して座れるように、見せ方を工夫する。	●世界の中では、自分達に馴染みのない朝ご飯を食べている人達がたくさんいることを知る。
2. 事前アンケートより、学級内で朝ご飯に何を食べているのか結果を把握する。	◆朝ご飯メニュー(イラスト)ランキングを発表する。	・文字と絵で発表(表示)することで分かりやすくす	

<p>3. 自分達が食べている朝ご飯のメニューを、日本発祥(和食)と外国から伝わってきたものに分け、課題を把握する。</p>	<p>◆子ども達が分からないものについては、教師が教える。</p> <p>◆外国生まれのメニューが多いことに気付かせる。</p> <p>◆一般的なメニューについても同様の活動を行う。日本人にとって馴染み深いメニューから知らないメニューへと段階がつくように順番に配慮する。</p>	<p>る。</p> <p>・発言が得意な児童を中心に、うなずいたり、言葉を繰り返したりすることで、全員に参加意識を持たせる。</p>	
--	---	--	--

【課題】 自分たちとせかいの食べもの、食べ方のちがいをくらべよう。

<p>4. 電子黒板を用いて、ホームページより、自分が気になる国を選択し、その国のことを調べる。</p>	<p>◆分かったことを伝え合う。</p> <p>◆全体交流する。</p>	<p>「明治の食育～世界の食と文化」 (https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/worldculture/)</p> 	
<p>5. 食事だけではなく、食べ方のマナーも世界では違うところがあることに気付く。(写真又はイラスト)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 日本のマナー 姿勢、食器を持つ、箸</p> <p>② 韓国のマナー 食器を持たない</p> <p>③ 中国のマナー 少しだけ食事を残す</p> <p>④ 欧米諸国のマナー ナイフやフォークを使う 音をたてない</p> <p>⑤ 手食文化をもつ国々 左手は使わない国も</p> </div>	<p>◆箸で食べる、手で食べる、ナイフやフォークで食べる食べ方のマナーの違いを紹介する。</p> <p>◆児童に食事風景をロールプレイさせ、感想を交流する。</p>	<p>・動きを取り入れることで、楽しんで知ることができるように支援する。</p> <p>・順番を守って、発表や活動ができるようにする。</p>	<p>●考え方や食事メニューの特徴から、国によって食べるマナーが違うことに気付く。</p>
<p>6. 自分達と違う文化をもつ人達と仲良くするために、何が必要かを考える。</p>	<p>□外国の人達やその文化と親しむために大切なことが何かに気付いている。(心情：発言)</p>	<p>・他を受け入れたら、認めたりできるように支援する。</p> <p>・方法は個の実態に合わせて行う。</p>	<p>●自分の文化と異なる文化を受け入れるために必要な気持ちや具体的な行動について考える。</p>

6 個別の目標

学園生	2 A①	2 A②	2 A③	2 A④	2 A⑤
実 態	<ul style="list-style-type: none"> •発想が面白く、発言も多い。 •長時間じっと座っているのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> •話を聞くことができる。 •想像したり、自由に考えたりすることが得意ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> •発言はできる。 •文字を読んだり書いたりすることや姿勢の保持が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> •考えや思いを短い文で表すことができる。 •大勢の前での発言が得意ではないが、文字に書いて考えをまとめられる。 	<ul style="list-style-type: none"> •思ったことを元気に発言することができる。 •最後まで話を聞かないで勝手に作業してしまうことがある。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> •興味を持って、聞いたり、見たりできる。 •気持ちの切り替えができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •興味を持って調べることができる。 •思いを発言できる。 	<ul style="list-style-type: none"> •姿勢を保持して聞くことができる。 •興味を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •興味を持って調べることができる。 •発言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •最後まで話を聞いて、調べ学習やまとめの発表ができる。
	<ul style="list-style-type: none"> •友達の考えを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •友達と協力して調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •興味を持って、友達と活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •興味を持って、友達と活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> •友達と協力して調べることができる。